

9月18日 みっくす

朝5時40分ごろに一度目が覚めると、ホームステイ先のお母さんが外の炊事場の掃除をしていた。朝早く起きてすごいなあと思いつつ二度寝してしまった。そして6時50分ごろにまた起きて本を読んだ。瀬戸正夫さんの書いた『父と日本に捨てられて 瀬戸正夫の人生を通じた東南アジアの歴史』だ。この本はタイに行くなら読めと知人に勧められて読んでいるのだが、未だ30ページくらいしか読んでいない。知人によると、戦中で日本が領土を広げようとしていく前から、戦前からタイは多くの日本人がいたという。その一つの例として、この瀬戸正夫さんが挙げられるそうだ。また、タイの資料館で見た資料では、江戸時代初期の1628年に当時のタイ王朝・シャムの最高官位にまで就いた山田長政という人物がおり、その人が日本とタイの架け橋ともなっていたそうだ。そう考えると、日本とタイというのは意外と昔から深い結びつきが有るのかなあと思う。そういえば、タイの資料館で、昔のタイで貿易をする商人になって商品の売買をするというテレビゲームのコーナーが有った。そのなかで日本人商人の読み方が **Rew-kweu** になっていたのが興味深かった。昔のタイでは「日本」は「琉球」をさしていたのかもしれない。確証はないのだが、可能性はなきにしもあらず。タイの伝統的なおもちゃのコーナーにハブのおもちゃが有ったのも、沖縄とのつながりを感じさせた。日本ー琉球ータイでどんな関係が築かれていたのか気になる。

朝飯を食べて、洗濯などをすますと10時ごろになった。その間にホームステイ先のお母さん・パドゥームさんからバナナの揚げ物とイモの揚げ物をもらった。バナナの方を「クワイ・トー」イモの方を「マン・トー」と言うらしい。イモが紅イモだったのが意外だった。どちらも衣がたっぷり油たっぷりだったが、おいしい。そしてコミュニティセンターに行って今日できることを聞いた。偉い人っぽいバンチョムさんにバナナチップスの加工場に連れて行ってもらった。バナナチップスも「クワイ・トー」と呼ばれていた。「トー」が「揚げ物」という意味らしい。センターから自転車で5分ほどのところに加工場があった。トムさんという女性が居た。しかしバナナチップスは今日は揚げていないということで、明日の朝8時に行くことになった。この加工場に行く間に犬の集団がたむろしており、近づくと吠えるのだが未だ咬みつきには来ない。しかしバンチョムさんは犬に注意しろと言っていたので、咬まれないようにしようと思う。最近バンジャムルンをうろうろしているのは、犬はこちらがシカトして犬に構わなければ、犬も自分の存在が気付かれていないと思うのかこちらに寄ってこない。思うに、犬たちが吠えているのは、自身の領域（シマ）を荒らされたり奪われたりすると思っているからなのではないか。そしてそう感じるのはシマに来た相手を認識して初めてできる思考なのではないかと思う。ここ2、3日試してみたのだが、犬と目を合わさず、犬が吠えても何のリアクションも示さなければ、たいていの犬は吠えても追って来はしない。たぶん犬たちは、自分たち（犬）が視線にさらされる・もしくは存在に気付かれる＝攻められる・やられる、と感じているのではないか。

だから攻めてくる敵を追い払う・退治するために吠えたり咬みついたりするんじゃないだろうか。そんなふうに思う。

バナナチップスの加工場から帰ってからはバンチョムさんと雑談した。バナナチップス加工場では他のチップスも揚げていて、とろろ芋チップスをもらっていた。このとろろ芋はタイ語で「プラッ」か「ブラッ」と発音する。この「プラッ」か「ブラッ」は日本語で何と言うのか、とバンチョムさんが英語で聞いたので、持っていたタイ-日辞書を渡すと「とろろ芋」が見つかった。バンチョムさんはしきりに「トロロイモ」とタイ語なまりで言っていたのが面白かった。ぼくらのタイ語も同じような感じで面白く奇妙に聞こえるのだろう。また、パドゥームさんがコミュニティセンターの方を指しながら言う「パイ・スワン・カセー」ということばの意味もバンチョムさんに教えてもらった。正しくは「パイ・スワン・カセー」らしく、意味は「農耕地」というような意味らしい。コミュニティセンターの周りに食用植物がたくさん植えられているので、たぶんそう呼ばれるのだろう。

そうこうするうちにお昼時になりご飯を食べた。朝ごはんを食べて、バナナチップスをたべて、とろろ芋チップスを食べて、ほとんど運動をしなかったお腹にはただただエネルギーが貯蓄されていく。昼飯は、ローン・チャイ（=チャイおじさん）とピー・ヴィロー（=ヴィロー兄さん・先輩）とバンチョムさんと他の村の人 2 人と食べた。ローン・チャイが、辛い料理と辛くない料理を混ぜて食べていたのを見て、なるほどと思った。今までは辛いものはご飯か水で相殺していたため、けっこうきつく感じることも有った。しかしこの方法だとうまい具合に辛いもの・辛くないものどちらもおいしく食べれるので、料理がより楽しめるものに近づく。はっきり言って、辛い料理ばかりで甘いものや辛くないものがあまり無い場合の食事は楽しむものではなく遂行する任務のように感じられる。辛いからあまり食べられないが、それでも勧めてくる食事を残すのは心苦しいし、親切や労いの気持ちを踏みにじることはできない。それでやっと食べ終わるとおかわりを持ってきてくれる。すばらしいサイクルだ（笑）まあそんな事態は未だ一度しかない（トゥッケーさんのお家…cf:昨日の日記）ので、大体の食事は口の中でボヤ騒ぎを起こしながら楽しんでいる。

お昼の後はお昼寝ということで一時間ほど 2 時まで寝るつもりが、結局夕方の 5 時くらいまで寝てしまった。そして夕ご飯を食べた。なぜこんなに寝たのかが、夕ご飯のときに話題に上った。そこで浅山が「今日はバンジャムルンに来てちょうど 6 日目に当たるから、休んでも良いころあいだったんですよ」と言ったので、なるほどと思った。たしかに、バンジャムルンに先週の金曜日に来てからオフの日が無かった。とりあえずそういうことにして、夕飯後はコミュニティセンターに行って履修登録やメールのチェックをした。